

芸術学

芸術学科 芸術学コース

◆ TR テキストレポート科目
 ◆ TX テキスト特別科目
 ● S スクーリング科目
 必 必修科目
 選必 選択必修科目
 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2020年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

芸術学コース専門教育科目

芸術活動という営みの意味を見つめるため、既成概念を取り払う。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学研修	芸術学フィールドワーク	S	必	1		芸術作品を現地で見学し(フィールドワーク)、芸術学の基本的な見方や考え方を学びつつ、学生同士の交流も深める。
芸術学実践	芸術学ワークショップ	S	必	1		講義でもなく鑑賞でもなく、実践(ワークショップ)の授業。クラスによって、顔料に触ったり、音を鳴らしたり、芸術を実践的に学ぶ。
芸術論 I-1	芸術理論	TR	必	2	有	日本・東洋・西洋の芸術論・文化論に慣れ親しむための入門的な科目。古今東西の芸術や文化について論じたさまざまな著作を読み、一定量の複雑な内容のテキストを精読するための技術と体力を身につける。
芸術論 I-3	芸術鑑賞1:日本・東洋	TR	必	2	有	日本・東洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている日本・東洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-4	芸術鑑賞2:西洋	TR	必	2	有	西洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている西洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-5	美術館・博物館の教育普及	TR	選	2	有	美術館・博物館の教育普及活動(ワークショップ)に参加し、その体験を踏まえて参考文献を読み、レポートを作成する。今日の美術館や博物館の重要な役割のひとつである教育普及活動について、机上の空論ではなく、多様な視点から主体的に考える力を養う。
芸術学 III-1	美術資料の読み方:日本・東洋	S	必	1		芸術を学ぶ者にとって文献の読解は必須である。原典に触れながら、基本的な資料の読み方を学ぶ。
芸術学 III-2	美術資料の読み方:西洋	S	必	1		
芸術学資料論 I-1	資料の講読:日本・東洋	TR	選必 (2単位以上)	2	有	日本・東洋・西洋の芸術学研究に欠かせない資料を読み解く。基本的な資料に慣れ親しみ、資料を正しく読解する力、その内容について理解を深める力を養う。
芸術学資料論 I-2	資料の講読:西洋	TR		2	有	
芸術学演習 I-2	美術批評	TR	必	2	有	芸術批判の理論と歴史を把握した上で実際に批判を試みる。
芸術学 I-1	芸術理論:芸術環境を巡る諸問題	S	選必 (2単位以上)	1		有名性が作る、芸術環境と作品中心の美学との関わりを考察する。18世紀から20世紀にかけての芸術的な、生産と享受のシステムを歴史的にたどり、それが今日まで抱えている諸問題を検討する。
芸術学 I-2	芸術理論:芸術学原論(祭礼と感性)	S		1		日本各地の祭礼や芸能を取り上げ、宗教的なものと芸術的なものとをどのようにとらえるべきか考察する。
芸術学 I-3	芸術理論:舞踊論	S		1		[舞踊(ダンス)]という活動は、現代社会の生きる私たちにとってどのような意味を持ち得るのか。見るものとしてのダンスではなく、踊る人にとってダンスはどのような経験なのか、どのような作用を及ぼすのかを中心にこの問題を考える。
芸術学 I-4	芸術理論:表象行為論	S		1		美術史や芸術論といったテキストの解説ではなく、人間がいかにその肉体と精神を通じて世界と文化的、有機的に関係しているかをダイナミックにとらえていく。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学 I-5	芸術理論：視覚文化論	S	選必 (2単位以上)	1		映画、写真、テレビジョン、パノラマ、広告、マンガなど、今日の私たちを取り巻く視覚イメージの意味や成立について講じる。
芸術学 II-1	芸術史：近現代美術の諸相	S	選必 (2単位以上)	1		主に西洋の近代美術を巡る諸問題を考察する。19世紀から今日に至るまでの芸術を対象として、その重要なトピックを、言語、政治、歴史、制度といった観点から多角的に検討する。
芸術学 II-2	芸術史：西洋芸術史の諸問題	S		1		芸術と精神分析のかかわりやジェンダーの問題など、芸術史上の今日的なトピックをとりあげ、多面的に考察する。
芸術学 II-3	芸術史：日本芸術史の諸問題	S		1		日本芸術史の諸問題について、特に近代の芸術コレクター、支援者であった原三溪を取り上げ、三溪を手がかりに近代美術史の重要な問題について論じる。三溪を軸にみていくことで、当時の美術をとり巻くさまざまな様相を明らかにする。
芸術学 II-4	芸術史：東洋芸術史の諸問題	S		1		仏教美術の作例を中心に取り上げ、従来の研究成果を振り返りつつ、その研究方法と今後の可能性について考察する。作例を軸とした研究と関連資料の研究の重要性を学び、様々な視点から考察する力を養うことが目標である。
芸術学 II-5	芸術史：西洋音楽の諸相	S		1		ヨーロッパを含めた、ヨーロッパ音楽の真髄を学ぶ。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります(芸必修=芸術学コース必修、歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)。

※アートライティングコース在学生在が履修できない科目もあります(ア履修不可)。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学基礎	TR	2	有	芸術の理論的研究に取り組むために必要な基本的語彙(キイ・ワード)の意味を理解する。あわせてそれを実際の作例に即して考えることを試み、感性的な対象に向けての理論的な思考を培うことを目標とする。※芸必修
美術史学基礎	TR	2	有	デザインに慣れ親しむための入門的な基礎科目。19世紀から現代にいたるまでのデザインの歴史的な流れを知り、近・現代のデザインがどのような表現や造形によって構成されているのか、またどのような技術や要素が盛り込まれているのかについて考察する。※芸必修
地域芸術理論	TR	2	有	地域環境は、季節や行事など色々な要素の周期的繰り返しによって規定される特定の型をもった場所である一方、それはいつも可変的な状態にある。地域環境における具体的な「生」の姿を注視することにより、その「生」がどのようなカオスと闘ってきたかを考察する。
京都学入門	TR	2	有	1200年を超える歴史を積み重ねてきた「京都」。その伝統と創造が繰り返されてきた歳月をいかに学ぶべきか。テキスト「京都学」を通じて、京都を学ぶための基礎を構築することを目指す。※歴必修
史料学基礎	TR	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料には様々な種類があり、その特質など史料論を理解する科目。※歴必修
史料講読基礎	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、古代・中世・近世・近代と各時代のものを取り上げ、基礎を理解出来る科目群。※歴必修
日本文化の源流	TR	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	2	有	
日本の生活文化	TR	2	有	
芸術学概論	S	1		芸術活動は古くから人々の関心を惹き続け、それを巡るさまざまな議論が重ねられてきた。芸術の諸領域にまたがる基本的な問題をいくつかとりあげ、これまでどのようなことが論じられてきたのかを概観するとともに、芸術学の立場や方法を講じる。※芸必修
美術史学概論	S	1		美術史を学ぶための入門科目。日本・東洋・西洋の著名な美術作品を取りあげながら従来のさまざまな研究について学ぶ。過去の研究の方法論を学び、残された課題や新たな研究の可能性を模索する。※芸必修
日本美術論	S	1		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	1		古代から近代に至るヨーロッパ美術の流れを、建築、彫刻、絵画、工芸の各ジャンルの作品を通して、体系的、かつ具体的に理解する。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
アジア美術論	S	1		[中国]世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島]高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
音楽文化論	S	1		音楽を文化社会現象ととらえ、「音楽は素朴に楽しめばいい」という命題に潜む「畏」について理解したうえで、音楽の楽しみ方を学ぶ。
京都の歴史	S	1		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的なことから、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的理解を目指す。※歴必修
文献資料講読	S	1		古文・漢文などの歴史的な史・史料について、それらを読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。※歴必修
京都学研修1	S	1		「京都」は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切に、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。
京都学研修2	S	1		
江戸の歴史	S	1		江戸は、いうまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的理解を深める。
文化批評概論	TR	2	有	オリエンタリズム、ポストコロニアリズム、脱構築、ジェンダーなど、20世紀以降の文化・芸術領域の批評用語を歴史的な文脈の中に位置付けて学ぶ。※文必修
神話学入門	S	1		世界各地の神話に遍在するテーマと構造を概観し、それらが反復して現れている現代の文芸・映画・アニメ・ゲームなどを分析する。
世界の古典を読む	S	1		世界のさまざまな古典文学の源泉をたどることで、文学の基本構造やその変容をとらえ、現代の創作に結びつけることを目指す。※文必修
日本の古典を読む	S	1		日本の古典文学に描かれた美意識や生々しい人間像を、それぞれの時代の文脈に即して読み解いていく。
京都の文芸	S	1		千年の古都・京都はさまざまな古典文学の舞台となってきた。まずはその古典のエッセンスと成り立ちを学び、舞台となったその場所を訪れて、「土地の力」を感受する。
短歌と俳句	S	1		三十一音、十七音で森羅万象を表現する短歌と俳句。それらの歴史と作品の構造を、名作を鑑賞しつつ学ぶとともに、実作も試みる。
インタビューと取材の方法論	S	1		ジャーナリストのみならず、調査研究する者、小説家、ライターにとっても重要なスキルであるインタビューして書く、調べて書く方法を、第一線のインタビュアーに学ぶ。※文必修
伝統芸能の諸相	S	1		和の伝統文化を構成する「芸能」、「工芸」、「絵画」、「詩歌」、「花道」、「茶道」等について、その歴史や思想に関する幅広い基礎知識を講義形式で学ぶ科目。※和必修
伝統芸能と工芸	S	1		
詩歌と日本文化	S	1		
花道文化の展開	S	1		
伝統文化の空間	S	1		
室礼ともてなし	S	1		

研究成果を卒業論文にまとめる。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次				
論文研究基礎演習	TX	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。※A履修不可
論文研究基礎	S	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見い出していくのかを学ぶ。グループに分かれて実際に論文を読み、グループ内討議を経て問題を抽出していく。こうした実践を経ることによって先行研究に対する客観的批判力を養う。※歴必修※A履修不可
3年次				
論文研究特論	S	1		歴史・美術史・芸能史などの専門家による研究成果の一端を講義で学ぶ。専門家の研究内容から、最新の研究成果を知るだけでなく、データの収集方法、史料の解釈の仕方、論理の立て方など、論文を書くためのヒントを学び取る。※歴必修※A履修不可
論文研究 I-1 (芸歴和)	S	1		卒業研究(卒業論文)に直結した科目。学生が自ら研究テーマを見つけて研究し、発表し、複数の教員がゼミ形式で指導する。 ※芸・歴・和のみ履修可かつ必修
論文研究 I-2 (芸歴和)	TX	1		
論文研究 II-1 (芸歴和)	S	1		
論文研究 II-2 (芸歴和)	TX	1		

科目名	S/T	単位数	単位修得 試験	履修内容
4年次				
論文研究Ⅲ	TX	2		「論文研究1」「論文研究2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。 ※ア履修不可
卒業研究(芸歴和)	TX	8		これまでに学習してきたことの集大成として、自らの研究成果を文章に表現し、発表する。※芸・歴・和のみ履修可かつ必修。

コースからのスクーリング開講に関するお知らせ

土日を中心とした2日間での開講となります。卒業要件に必要な単位を京都のみまたは東京のみのスクーリングだけで修得することが可能です。ただし、京都のみ開講、東京のみ開講となる科目があるため、選択によってはその限りではありません。